



IUFRO-J NEWS

No. 79 (2003.8)

IUFRO 第3部会役員中期会議

京都大学フィールド科学教育研究センター 芝 正己

はじめに

本年5月12日～15日の4日間にわたり、スウェーデン南東部の商業都市ベクショー (Växjö) で、スウェーデン林業試験場 SkogForsk 主催の「第2回国際林業工学会議 2nd IFEC (The Second International Forest Engineering Conference)」が開催された。この会議に併せて行われた IUFRO 第3部会役員中期会議 (IUFRO Division 3 Officer's Mid-Term Meeting) に出席したのでその概要を報告する。なお、今回の役員会議は当初ウプサラ Uppsala (スウェーデン農科大学) で行うことが予定されていたが、2nd IFEC のベクショー開催に伴い変更となったものである。

会議概要

2000年のクアラルンプール、2005年のブリスベンの新旧両 IUFRO 世界大会の中間年に開催された本年の役員中期会議は、前々回のタンペレ大会で部会長に指名された D. Dykstra (C3.00.00, USA) の二期目最後の主催となった。表-1 に参加者のリストを示したが、その内訳は 10ヶ国 17名の役員 (CU: Coordinating Unit, RG: Research Group, WP: Working Party) と、6ヶ国からの各1名のオブザーバの計 23名であった。なお、役員会議出席率は 20% で、前回 1998年のチューリッヒでの 27% を下回った。

表-1 役員会議出席者一覧 (オブザーバーを含む)

| Name | Office | Country |
|------------------------|-----------------------------------|-------------|
| Dykstra, Dennis | C3.00.00 | USA |
| Heinimann, Hans | D3.00.00 | Switzerland |
| Mikkonen, Esko | C3.04.00 | Finland |
| Shiba, Masami | C3.06.00 | Japan |
| Garland, John J. | C3.07.00 | USA |
| Hytönen, Pentti | C3.08.00 | Finland |
| Gingras, Jean-François | C3.10.06 (representing 3.10.00) | Canada |
| Dahlin, Bo | C3.12.00 | Sweden |
| Mettsson, Anders | D3.02.00 | Sweden |
| Lainonen, Timo | D3.04.01 | Finland |
| Apud, Elias | D3.07.00 | Chile |
| Rummer, Robert | D3.07.00 | USA |
| Berg, Staffan | D3.10.01 | Sweden |
| Bigot, Maryse | D3.10.03 (newly appointed) | France |
| Suadicani, Kjell | D3.10.06 | Denmark |
| Nitteberg, Morten | D3.11.02 | Norway |
| Sjöström, Kim | D3.12.00 | Finland |
| Bjerketvedt, Jan | Observer (Skogforsk Norway) | Norway |
| Covalli, Raffaele | Observer (U. Padova; EurAgEng) | Italy |
| LeBel, Luc | Observer (Laval University) | Canada |
| Meyer, Filipe | Observer (Univ. of Concepcion) | Chile |
| Seixas, Fernando | Observer (Piracicaba) | Brazil |
| Zubkovich, Alinksandr | Observer (Belarus State Tech. U.) | Belarus |

C: Coordinator, D: Deputy coordinator

役員会議の議事次第及びその内容は以下の通りである。

1 開会挨拶

Dykstra 部会長より役員会議開会の挨拶があり、引き続き参加者全員の簡単な自己紹介が行われた。

2 会議事項確認

本役員会議に先立つ Internet meeting で事前照会されていた 6項目についての簡単な説明があり、これについて協議することが承認された。

1) IUFROの背景

IUFROの目的と使命，組織構成（理事会，事務局，部会），メンバー，研究集会実績等についての説明がな

された。これは，最近のIUFRO機構が大きく様変わりしてきていることを受け，その内容を役員全員に周知徹底させること，次期役員候補として参加しているオブザー

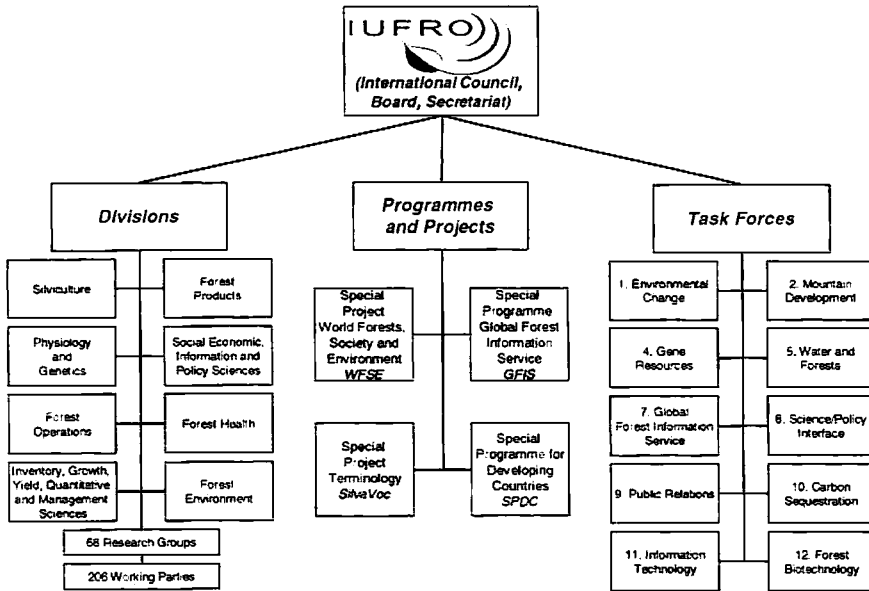


図-1 IUFRO機構

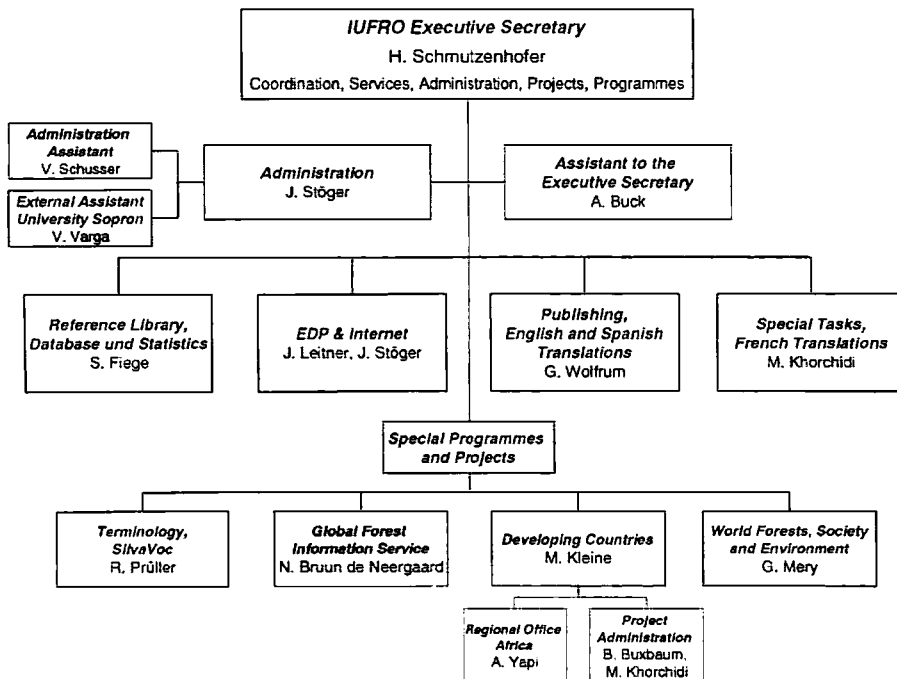


図-2 IUFRO事務局

表-2 2003年現在のIUFROメンバー統計

| | |
|-----------------------|---------------|
| Total Organizations | 694 |
| Countries | 111 |
| IUFRO Units | 292 |
| - Task Forces | 10 |
| - Divisions | 8 |
| - Research Groups | 68 (D3 = 9) |
| - Working Parties | 206 (D3 = 19) |
| Countries represented | 66 (D3 = 32) |
| Officeholders | 816 (D3 = 88) |

D3: 第3部会

表-3 過去5年間の年度・地域別研究集会開催数

| | 2002 | 2001 | 2000 | 1999 | 1998 |
|-----------------------|------|------|------|------|------|
| Total | 73 | 70 | 43 | 76 | 91 |
| North Europe | 14 | 9 | 2 | 12 | 9 |
| Central Europe | 17 | 15 | 14 | 21 | 18 |
| Eastern Europe | 8 | 5 | 5 | 4 | 6 |
| Mediterranean | 9 | 11 | 2 | 7 | 5 |
| North America | 6 | 15 | 5 | 9 | 12 |
| Central/South America | 4 | 7 | 6 | 8 | 5 |
| Africa | 3 | 0 | 1 | 4 | 5 |
| Asia | 7 | 5 | 3 | 7 | 23 |
| Southwestern Pacific | 4 | 3 | 5 | 4 | 8 |

への予備知識の供与と啓蒙を意図としている。ここで提示された資料の主要なものを参考のために列挙する。

2) 第3部会の活動状況

① 2002年IUFRO年報 (IUFRO Annual Report 2002)

掲載の3RG (3.05.00, 3.08.00, 3.10.00)のハイライト記事(Highlights cont'd)について資料による紹介が行われた。その概要は以下の通りである。

- ・ 3.05.00 Forest Operation in the Tropics: 熱帯地域の森林作業

EUがスポンサーとなった収穫強度に関するRGの研究結果が、関係行政機関の政策に反映されることとなった: インドネシア・カリマンタン島で行われたP. Sist (D3.05.00)を代表とする許容伐採本数に関する実証研究で、8本/ha以下が環境負荷的に望ましいことが示された。

- ・ 3.08.00 Small-Scale Forestry: 小規模林業

オーストラリア・クイーンズランド大学のJ.

Herbohn (D3.08.00)を編集主事とする学会誌“Small-Scale Forest Economics, Management and Policy 小規模森林の経済、管理及び政策”が、当該RGの活動支援学術誌として新たに刊行されることとなった。創刊号では、ドイツ、バプア・ニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ、オーストラリア、米国、フィリピンの事例が掲載される。

- ・ 3.10.00 Harvesting, Wood Delivery and Utilization: 伐採、木材配送及び利用

南ア林業工学協会 (Forest Engineering Southern Africa FESA) 及びオレゴン州立大学林業工学部 (DFEOSU) 共催の国際会議 (テーマ: Forest Engineering Solutions for Achieving Sustainable Forest Resource Management 持続可能な森林資源管理達成のための林業工学的解決法) が、2002年7月2日～3日に南ア共和国のピーターマリッツブルグで開催された。参加者は130名で、会議のプロシーディングはDFEOSUのL. Kellogg (D3.10.00, USA)から入手できる。

② 2002年活動実績

- ・ 部会内のRG/WP再編

2002年6月のIUFRO理事会で、RG3.09.00 Economics and Harvesting of Thinning: 間伐収穫及び経済の解散と、同名でのWP3.10.06の発足が承認された。この再編の理由は、3.09.00の初期の目標がほぼ達成されたこと、活動の主要部分が3.10.00に接近してきたことによる。3.10.06は6月末に正式発足し、J. F. Gingras (C3.10.06, Canada), J. Lyons (D3.10.06, Ireland), R. Spinelli (D3.10.06, Italia), K. Suadican (D3.10.06, Denmark)の4名の役員が選出された。このWPは既に“Improving the Economics of Early Thinning: 初期間伐の経済性の改善”のテーマで、3.10.04 Harvesting and Forest Energy: 収穫と林業エネルギー、フィンランド林業試験場との共催セミナーを企画している (2003年5月7日～9日)。

- ・ 日本で開催された重要な研究集会

“New Roles of Plantation Forestry Requiring Appropriate Tending and Harvesting Operation: 適切な保育・収穫作業が求められている人工林林業の新たな役割”のテーマで、森林利用学会と第3部会の主要な3RG (3.04.00, 3.06.00, 3.07.00)が協賛した国際セミナーが2002年9月29日～10月5日に行われた。23ヶ国132名の参加者による64

のプレゼンテーションと14のポスター発表があった。

- ・ 米国林業工学協議会第25回年次会議 (COFE 25th Annual Meeting)

“Forest Engineering Challenge: A Global Perspective 林業工学の挑戦：世界的視点”と題したCOFE (Council of Forest Engineering USA：米国林業工学協議会)の年次会議が、アラバマ州のアーバンで開催された (2002年6月16日～20日)。Auburn University, Caterpillar Inc., Mead Westvaco Corp.の産学協賛で、ヨーロッパ、南米からの9ヶ国170名の参加者があった。

- ・ FAO/ECE/ILO 合同セミナー

2002年6月3日～7日のベルギー・ブリュッセルで開催された“Committee on Forest Technology, Management and Training：林業技術、管理及びトレーニングに関する検討委員会”において、第3部会は重要な役割を果たした。すなわち、この検討委員会のテーマは林業におけるパートナーシップに関するものであり、森林作業者の問題が主に議論されたからである。なおこの委員会の報告書は、UNFECの以下のサイトで閲覧できる。

<http://www.unfec.org/trade/timber/docs/jesem/sem-53/sem-53.htm>

- ・ 3.02.00 Operational Methods in the Establishment and Treatment of Stands：林分造成及び取扱いに関する作業方法

2002年にブラジルでの研究集会を予定していたが、ホスト側の事情により2003年に延期された。場所、テーマ、日程等については近日中にアナウンスされる予定である。

- ・ 3.04.00 Forest Operations Management：森林作業管理

2002年9月3日～4日にヘルシンキで開催された“Seminar on Forest Information Technology：森林情報技術セミナー”に協賛した。120名の参加者と20のプレゼンテーションがあった。なお、上述の日本での国際セミナーにもRG全体として参加した。

- ・ 3.05.00 Forest Operations in the Tropics：熱帯地域の森林作業

“Reduced impact logging and its relation to silviculture：環境低負荷型伐出と更新技術”をテーマとしたブラジルでの研究集会を予定していたが、実行組織及び財政面の双方の事情から2003年、

ないしは2004年まで延期されることとなった。

- ・ 3.06.00 Forest Operations under Mountainous Conditions：山岳地形条件下の森林作業

当該RGは4つの国際会議に協賛した。“Treffen der Sektion Forsttechnik：ドイツ語圏林業工学研究機関セミナー”がハンガリーのショプロン (Sopron) で開催された (2002年3月6日～8日)。このセミナーは、西ハンガリー大学及びFAOがホストとなり、5ヶ国から45人の参加者があった。INTERFORST 2002/Forumsは、2002年7月3日～7日の5日間にわたってミュンヘンで開催された。KWF (German Center for Forest Work and Technology), BLB (Federation of Agriculture Trade Union), BUK (Federation of Accident Insurers)及びTUM (Technical University of Munich)が組織し、フォーラムには6ヶ国91名の参加者があった。他の2研究集会は、上述した米国林業工学協議会第25回年次会議と日本での国際セミナーである。

- ・ 3.07.00 Ergonomics：人間工学・労働生理

ILOのニューズレター“FORWORKNET：Ergonomics in Forestry, update No. 8”特集号への寄稿が特筆される。掲載された論文は以下のILOのサイトで閲覧できる。なお当該RGは、日本での国際セミナーにも参加した。
<http://www.ilo.org/public/english/dialogue/sector/newsleter/forwknet/>

- ・ 3.08.00 Ergonomics：小規模林業

上述したように、“Small-Scale Forest Economics, Management and Policy 小規模森林の経済、管理及び政策”が、当該RGの活動支援学術誌として刊行されることとなった。また、6.11.02 Forestry and Rural Development in Industrialized Countries：工業国における林業と地域発展、との協賛によりドイツ・ゲングンバッハにおいて国際シンポジウムを開催した (2002年7月28日～8月1日)。このシンポジウムには、23ヶ国から75名の参加者があり42の研究発表がなされた

- ・ 3.010.00 Harvesting, wood Delivery and Utilization：伐採、木材配送及び利用

上述した南ア共和国のピーターマリッツブルグでの国際会議が主要なものである。

- ・ 3.11.00 Forest Operations and Environmental Protection：森林作業と環境保全

ミュンヘンで開催予定の“森林作業と土壌”に

関する会議は延期された。

- ・ 3.12.00 Logistics in Forest Operations : 森林作業のロジスティクス

2002年9月にギリシャで予定されていた会議は、登録者不足のためにキャンセルとなった。RG全体としての当面の主要な活動目標は、International Journal of Forest Engineering IJFEの特集号(仮題: Logistics in Forestry)への寄稿準備である。この特集号は、2005年のIUFRO世界大会に併せて同年7月に刊行予定である。

3) Website, directories, newslettersの整備状況

当該部門の管理担当者である H. Heinimann (D3.00.00, Switzerland) から、マレーシア大会以降の整備状況について総括的な説明があった。研究集会やセミナー、プロシーディング (CDを含む)、関連分野の出版物や技術資料等に関する情報提供の頻度や量が相対的に高まってきたこと、HPのupdateが半年程度で行えるようになってきたこと等が改善点として述べられた。ただし、依然としてRG間での格差があることが課題である旨の指摘もあつた。

4) IUFRO 表彰事項

第3部会の表彰実績について以下の説明があった。

■ 名誉会員 Honorary Memberships HM

I. Samset (元IUFRO会長, Norway)

U. Sundberg (元部会長, Sweden)

M. Bol (元部会長, The Netherlands)

■ 功労賞 Distinguished Service Award DSA

P. O. Nilsson (元部会長, Sweden)

H. Brandl (前C3.08.00, Germany)

S. Tomanic (前C3.04.00, Croatia)

E. Apud (D3.07.00, Chile)

両賞の推薦締切り限は設定されていないが、2005年の世界大会での表彰を踏まえると2003年末が一応の日安となることを確認した。

■ IUFRO 林学学生賞 IUFRO Student Award for Excellence in Forest Sciences

2005年のブリスベン大会より授与される新設の当該賞は、原則的に修士論文レベルの学生研究成果を対象としており、候補者の推薦締切りは2003年9月15日で翌年に受賞が決定される。

なお、従来の下記2賞については推薦締切り2003年末で、2005年のIUFRO世界大会で表彰される。

■ 科学功績賞 Scientific Achievement Awards SAA

■ 優秀博士研究賞 Outstanding Doctoral Research Award ODRA

なお、今回の役員会議ではいずれの賞への候補者推薦も無かった。

5) 2005年IUFRO世界大会に向けての第3部会の取り組み

- ・ IUFRO 2005年世界大会

- ・ 期間: 8月8日~13日

- ・ 場所: ブリスベン・オーストラリア

- ・ 大会テーマ: Forests in the Balance: Linking Tradition and Technology 平衡下の森林: 伝統と技術の連結

- ・ サブテーマ:

- ① Multiple goals: Intensive management, extensive management, or conservation? 多重目標: 集中管理, 広域管理, あるいは保全?

- ② Utilizing genetic resources 遺伝資源利用

- ③ Climate change 気候変化

- ④ The forest wood chain 森林-木材連鎖

- ⑤ Involving indigenous groups in forest sciences 森林科学への先住民グループの参画

- ⑥ Increasing the value of forests through innovative products and technologies 革新的製品創造と技術による森林の高付加価値化

- ⑦ Demonstrating sustainable forest management 持続可能な森林管理の実証

- ⑧ Society's duty to sustain forests 森林維持の社会的責務

- ⑨ Realizing environmental benefits of forest 森林の環境的便益の具現化

- ⑩ Advancing the roles of communication, education, and capacity building コミュニケーション, 教育, 受容能力形成の役割促進

昨年5月よりRG役員レベルでのInternet meetingを行ってIUFRO世界大会のサブテーマ (Plenary/Subplenary Sessions) について検討した。その結果、以下の4テーマを決定し、9月5日付けで部会長よりIUFRO事務局へ提出された。

1. The Forest-Wood Chain, from Tree to Forest Products 森林-木材連鎖, 立木から林産製品まで

第4及び第5部会との共同テーマとして提案されたもので、論点は林業・林産業のlogisticsをツールとして木質資源の利用価値を如何に高めていかに置かれている。このテーマを提案支持したのはスカンジナビア (スウェーデン, フィンランド) の役員であった。人間と技術との相補的な相互作用がキーワードであり、木材の収穫, 加工, 流通・販売の全過程・連鎖を通しての最適化の重要性を議論する。

2. Privatization of Forestry in Emerging Market Economics 新興市場経済下での林業の民営化

東ヨーロッパ諸国の役員から提案されたこのテーマは、森林管理体制の脆弱な地域における森林作業実行に関する行政諸法の問題、資本金力や職業訓練機会に恵まれない請負業者の優遇処置・支援方法に関する問題、所有形態・規模（小規模私有林—州有林）に起因する森林管理の問題等を議論の焦点とする。

3. Forest Certification and Sustainable Forest Management: Research Needs 森林認証と持続可能な森林管理：研究要求

第3部会の多くの役員によって支持されたテーマが、木材ラベリングCoC(Chain of Custody)を含む森林認証に関するものであった。その理由は、森林認証(原則・基準)が造林から生産、加工、流通、販売の全過程に関係したものであり、全てのRG/WPが対象とする領域テーマを包含していること、FSCやPEFCが世界的に展開してきており従来の生産技術や方式の再考が求められてきていること等による。森林作業の観点からは、環境面や安全面に関する基準値や閾値の定義、モニタリングシステム、作業実行の監査システム等が具体的な研究課題となる。

4. Present and Future Technologies to Support Sustainable Forestry 持続可能な林業を支える現在及び将来の技術

第3部会のオーソドックスなテーマとして提案されたもので、GPS、GIS、Remote Sensing、Mobile Communication技術、丸太原木・製品の追跡システム、Internet等に関する話題が中心となる。

IUFRO世界大会のサブテーマとして第3部会より提案されたこれらのテーマが、直接あるいは間接的に反映される結果となったことが理解できる。大会に向けての今後の作業としては、総会・合同集会へのスピーカーの選出(期間中の毎日の総会で5名の基調講演、サブテーマごとの各1名の合同集会講演)、サブテーマに関係したside meetingの立ち上げ等があげられる。

6) 2006年～2010年の第3部会役員候補

前回1998年のチューリッヒでの役員会議では、RG/WPの新設や統廃合の再編、研究集会やセミナーの在り方、役員資格や地域的配分等、極めて広範な議論がなされた。今回は時間的な制限もあり役員資格・改選に関するIUFRO規定の確認のみとなった。具体的な役員

表-4 第3部会の地域別役員選出割合(%)と主要国

| | |
|-----------------------|----|
| North Europe | 22 |
| Central Europe | 14 |
| Eastern Europe | 9 |
| North America | 22 |
| Central/South America | 7 |
| Africa | 2 |
| Asia | 17 |
| Southwestern Pacific | 7 |

USA (12), Canada (7), Sweden (6), Finland (9), Australia (4), Japan (6), Brazil (3), Norway (3), Chile (3), Italia (3), Ireland (3), Malaysia (3)

役員ポストの重複も含む

選出作業については、CU(D/C)と9RG(C)で調整して進めることが確認された(表-4)。

- ・ 役員の指名及び部会の組織編成は2005年のIUFRO世界大会までに完了しておかなければならない。
- ・ CU及びRGの各役員についてはIUFRO理事会の承認を必要とする；WP役員については通知のみ。
- ・ 役員任期は最長2期(10年)で、部会長から提出された役員候補者名簿に基づいてIUFRO事務局が該当の有無を審査する。

あとがき

以上、ベクショーで開催されたIUFRO第3部会役員中期会議について紹介した。スウェーデン南東部スモランド地方Smalandは、多くの美しい湖が点在するスウェーデン有数の森林地帯である。そのためこの地方は昔から“Wooden heart of Sweden”と呼ばれてきた。ベクショーはこの地方にあって、ガラスの王国として知られており、その歴史は、16世紀の中頃、後のスウェーデン王国の基礎を築いたグスタフ・パーサー王が、産業振興のためにイタリアのベネチアからガラス職人を招いたことに始まると言われている。鉄工精錬の高い技術、燃料としての豊富な森林資源、そして伝統的な色彩のセンスが相まって、今や世界的に名だたる“スウェーデンガラス”の産地として成長した。人口5千人程度の町であるが、空港もありストックホルムから45分のフライトで訪れることができる。ストックホルムやウプサラのように芸術や文化の薫り高い落ち着いた雰囲気には乏しい

が、スウェーデンのIT産業やMobile Communication技術の新興中心地として、近代的な商業都市の清気が十分に感じられた

今回の旅は、その後、ヨーロッパにおける最近の森林認証・CoC(FSC,PEFC)の動向調査を目的として、ウプサラのスウェーデン農科大学、ドイツのエアフルト大学・ドレスデン工科大学、スイスのETH訪問と、短期間での移動の連続であった。出発前には、快適なヨーロッパの春を満喫しながらの一人旅を期待していたが、日

中でも肌寒く感じるスウェーデン、日本の夏を思わせる猛暑のドイツ・スイスと、まったく予想外の展開となった。ただし、そのお陰で、水分補給と称する旧友達とのビールの機会は格段に多くなった―“ツウム・ポール!”

なお、本役員会議出席に際しては、IUFRO-Jの「IUFRO 研究集会参加助成」の支援を頂いた。ここに記してお礼を申し上げる

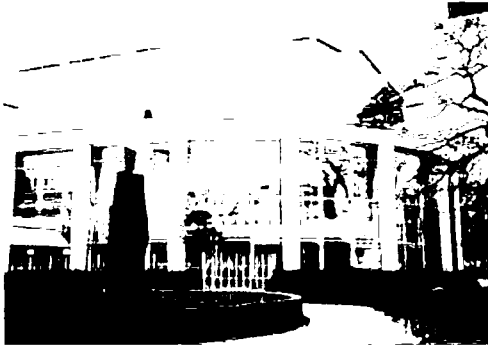


写真-1 会場となったベクショーのコンサートホール



写真-3 機中からのスモーランド景観



写真-2 会議風景 (左端が Dykstra 部会長)



写真-4 ウプサラの大聖堂 Domkyrkan

IUFRO 林学学生賞 (ISA) のご案内

IUFRO News (Vol.32, 2003, Issue1)で案内があまりしように、IUFRO 林学学生賞 (ISA) が創設されました。この賞の推薦書類は、IUFRO 事務局宛に2003年9月15日までに送付してください。その際、審査を受ける被推薦者の出版物、推薦状、履歴書を同封してください。授賞は、2004年のIUFRO会合で公表します。なお、IUFRO 会長 Risto Seppälä 氏がすでに公表していますように、特別対象となる分野は、IUFROの部会 (Divisions) と特別対象 (Task Forces) で重点となっているすべての分野です (IUFRO ウェブサイト <http://iufro.boku.ac.at> を参照ください)。推薦の締め切りが迫っていますが、かろって応募してください。

以下は、ウェブサイトのIUFRO 林学学生賞 (ISA) の部分の和訳です。

典拠

IUFRO 理事会 (定款XVIおよび内部規則セクションXIV)。

目的

森林科学における学生の優れた業績を認めることとIUFROが網羅している研究分野において彼らの研究活動を一層促進することを目的とします。

使用言語

出版物、卒業論文、修士論文は、IUFROの公式言語4カ国語 (英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語) のうちのどれか1つで提出されなければなりません。その他の言語の場合、翻訳する必要があります。

賞

この賞によって、表彰状とIUFRO理事会が決めた額の賞金 (現在は2,000米ドル) が贈られます。

表彰件数

優れた功績の候補の中から毎年2件の業績に対して賞

が授与されます。

賞格と対象

この賞の対象者は、IUFRO 会員機関に関係し、もしくはIFSA 会員として認められたすべての学生です。この賞は、大学に在学中か、卒業後3年以内に行われた優れた個々の学術的な業績を対象とします。

推薦

IUFRO 会員機関あるいはその職員、および国際森林

公表

授賞は、IUFRO 会合、会議あるいは理事会会合の場で公表され、被推薦者はその場に招待されます。公表の場は、受賞者の旅費が高まないように選ばれます。賞金と受賞者の旅費の確保のために、IUFRO はスポンサーを捜しています。受賞者スポンサーの名前は、IUFRO ニュースと年次報告書で公表します。

選考

表彰委員会は締め切り後、3ヶ月以内に推薦書類を審査しIUFRO 理事会に勧告します。受賞者の承認はIUFRO 理事会によって行われます。

委員会は、IUFRO 会合、会議あるいは理事会会合の場で公表され、被推薦者はその場に招待されます。公表の場は、受賞者の旅費が高まないように選ばれます。賞金と受賞者の旅費の確保のために、IUFRO はスポンサーを捜しています。受賞者スポンサーの名前は、IUFRO ニュースと年次報告書で公表します。

表彰委員会は締め切り後、3ヶ月以内に推薦書類を審査しIUFRO 理事会に勧告します。受賞者の承認はIUFRO 理事会によって行われます。

推薦の募集は、毎年はじめ、通常1月末日までにIUFRO 会長によって、IUFRO ニュースとIUFROのウェブサイトに公表されます。会長は賞の対象となるテーマを公表します。そのテーマはIUFROの機構 (部会 Divisions, 特別対象 Task Forces, プログラムとプロジェクト Programmes and Projects) に関連したものである必要があります。IUFRO 会議と次の会議までの間の期間で同一テーマを繰り返すことはできません。推薦状など必要書類は、公示された締め切りまでにIUFRO 事務局に送付することになります。

推薦の募集は、毎年はじめ、通常1月末日までにIUFRO 会長によって、IUFRO ニュースとIUFROのウェブサイトに公表されます。会長は賞の対象となるテーマを公表します。そのテーマはIUFROの機構 (部会 Divisions, 特別対象 Task Forces, プログラムとプロジェクト Programmes and Projects) に関連したものである必要があります。IUFRO 会議と次の会議までの間の期間で同一テーマを繰り返すことはできません。推薦状など必要書類は、公示された締め切りまでにIUFRO 事務局に送付することになります。

学生協会 (IFSA) の会員によって推薦され、自薦は受け付けません。推薦には、中立的な立場の推薦状をなくとも1通を添付してください。

IUFRO 林学学生賞 (ISA) の詳細

学生協会 (IFSA) の会員によって推薦され、自薦は受け付けません。推薦には、中立的な立場の推薦状をなくとも1通を添付してください。

推薦の募集は、毎年はじめ、通常1月末日までにIUFRO 会長によって、IUFRO ニュースとIUFROのウェブサイトに公表されます。会長は賞の対象となるテーマを公表します。そのテーマはIUFROの機構 (部会 Divisions, 特別対象 Task Forces, プログラムとプロジェクト Programmes and Projects) に関連したものである必要があります。IUFRO 会議と次の会議までの間の期間で同一テーマを繰り返すことはできません。推薦状など必要書類は、公示された締め切りまでにIUFRO 事務局に送付することになります。

委員会は、IUFRO 会合、会議あるいは理事会会合の場で公表され、被推薦者はその場に招待されます。公表の場は、受賞者の旅費が高まないように選ばれます。賞金と受賞者の旅費の確保のために、IUFRO はスポンサーを捜しています。受賞者スポンサーの名前は、IUFRO ニュースと年次報告書で公表します。

これからの研究集会予定

第1部会 造林

9/15～19, 2003 スペイン ネバラ
西ピレネーの山岳林の造林と持続的管理
連絡先: Isabel Canellas
Tel: +34-91-3476867, Fax: +34-91-3532296
EMail: canellas@inia.es

9/21, 2003 カナダ ケベック
持続的林業における造林と遺伝資源の保全 (世界林業会議サイドイベント)
連絡先: Jean Beaulieu
EMail: beaulieu@nrcc.gc.ca

9/21～24, 2003 ポーランド ポツナン
森林植物材料の生産と品質
連絡先: Wojciech Wesoly
Tel: +48-61-8487743, Fax: +48-61-8487743
EMail: wesoly@au.poznan.pl

9/27～10/2, 2003 ドイツ フライブルク
針葉樹林の保全問題
連絡先: Heinrich Spiecker
Tel: +49-761-2033737, Fax: +49-761-2033740
EMail: instww@uni-freiburg.de, <http://www.forst.uni-freiburg.de/Waldwachstum/>

10/14～18, 2003 ウクライナ Rakhiv
ヨーロッパ温帯域の天然林—その価値と利用
連絡先: Brigitte Commarmot
Tel: +41-1-7392280, Fax: +41-1-7392215
EMail: rakhiv_2003@wsl.ch, <http://www.wsl.ch/>

11/17～19, 2003 スペイン Murcia
再造林: 新たな取り組みと伝統的方法
連絡先: Victor M. Castillo Sanchez
Tel: +34-9-68215717, Fax: +34-9-68266613
EMail: victor@cebas.csic.es

4/21～23, 2004 キューバ Pinar del Rio
第3回シンポジウム「森林資源の持続的経営」
連絡先: C. Fernando Hernández Martínez
Tel: +53-82-779363, Fax: +53-82-779353
EMail: fherandez@af.upr.edu.cu

6/21～25, 2004 フランス Montpellier
第1部会全体会議
連絡先: Dr. John Parrotta
Tel: +1-703-6054178, Fax: +1-703-6055131
EMail: jparrotta@fs.fed.us

9/12～16, 2004 ドイツ Kloster Seeon, Bavaria
山岳林の更新—持続的経営の前提条件
連絡先: Dr. Pasi Puttonen
Tel: +358-9-19158118, Fax: +358-9-19158100
EMail: pasi.puttonen@helsinki.fi,

第2部会 生理と遺伝

9/10～14, 2003 ブルガリア Borovetz
五葉松の培養と遺伝資源
連絡先: Dr. Scott E. Schlarbaum
Tel: +1-615-9747126, Fax: +1-615-9744733
EMail: tenntip@utk.edu

9/21, 2003 カナダ ケベック
持続的林業における造林と遺伝資源の保全 (世界林業会議サイドイベント)
連絡先: Jean Beaulieu
EMail: beaulieu@nrcc.gc.ca

9/29～10/3, 2003 日本 つくば
ナラ林の創設と維持における造林学と遺伝学の統合
連絡先: 金指あやこ
Tel: +81-298-733211 ext. 445, Fax: +81-298-733795
EMail: ayakoka@ffpri.affrc.go.jp, <http://ss.ffpri.affrc.go.jp>

9/29～10/3, 2003 オーストラリア パース
第3回国際シンポジウム「木本植物の根系における生理的なプロセスの動態」
連絡先: Pauline Grierson
Tel: +61-618-93807926, Fax: +61-618-93807925
EMail: pfgblue@cyllene.uwa.edu.au

10/5～8, 2003 ドイツ マールブルク
生態系保護と移入種問題
連絡先: Prof. Dr. Dietrich Werner
Tel: +49-6421-2821546, Fax: +49-6421-2828997
EMail: info@biol-resource-migration.de

10/30～31, 2003 ウルグアイ モンテビデオ
第1回イベロアメリカンシンポジウム「ユーカリ」
連絡先: Rogirio De Aguiar
EMail: mundial@adinet.com.uy

4/8～10, 2004 チリ Valdivia
温暖林の価値：遺伝資源造成と産業利用
連絡先: Mari Paz Molina
Tel: +56-41-749090, Fax: +56-41-749090
EMail: mmolina@infor.cl, <http://www.infor.cl>

第3部会 森林作業

9/9～14, 2003 スロベニア Logarska Dolina
農家林における森林作業の改善
連絡先: Joachim Lorbach
Tel: +39-06-57052596, Fax: +39-06-57055137
EMail: joachim.lorbach@fao.org,

9/20, 2003 カナダ ケベック
熱帯林における持続的森林経営のための攪乱の少ない取
穫技術（サイドイベント）
連絡先: Rudolf Heinrich
Tel: +39-06-50913788, Fax: +39-06-50918101
EMail: rudolf.heinrich@tin.it

10/5～9, 2003 オーストリア Schlaegf
山岳地域のためのハイテク作業
連絡先: Karl Stampfer
EMail: stampfer@mail.boku.ac.at

10/14～19, 2003 スロバキア Zvolen
自然に近い林業
連絡先: Miroslav Gecovic
Tel: +421-45-5314124, Fax: +421-45-5321883
EMail: gecovic@fris.sk, <http://www.fris.sk>

12/31, 2003 タンザニア
3.06.00/3.07.00 合同会議
連絡先: Willbard S. Abeli
Tel: +255-56-4944, Fax: +255-56-4648
EMail: abeli@sua.ac.tz

3/29～4/1, 2004 アメリカ Pullman
家族経営的林業の人的側面
連絡先: David M. Baumgartner

Tel: +1-509-3352964, Fax: +1-509-3352878
EMail: familyforestry@wsu.edu

第4部会 森林資源管理

9/2～9/4, 2003 スウェーデン ウメオ
森林のレーザーによる調査 (Scandlaser)
連絡先: Hakan Olsson
EMail: Hakan.Olsson@resgeom.slu.se

9/8～12, 2003 台湾 台北
自然資源モニタリングと管理における統計学、情報シス
テム、コンピュータの利用
連絡先: Dr. Biing Guan
Tel: +886-22-23626942, Fax: +886-22-23639247
EMail: btguan@research.ntu.edu.tw

9/15～19, 2003 日本 山形
人工林のための多目的資源調査
連絡先: 野堀嘉裕
Tel: +81-235-282946, Fax: +81-235-282972
EMail: ynobori@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

9/17～19, 2003 カナダ ケベック
国内、地球規模の森林情報システムための情報相互運用
と組織
連絡先: Dr. Alan J. Thomson
Tel: +1-250-3630632, Fax: +1-250-3630775
EMail: athomson@pfc.forestry.ca

4/12～14, 2004 ブラジル ブラジリア
熱帯乾燥林とサバンナの管理
連絡先: Prof. Dr. Jose Imana Encinas
Tel: +55-61-2736026, Fax: +55-61-3470631
EMail: imana@unb.br

4/25～27, 2004 スロバキア Tále, The Low Tatras
森林管理における持続的取穫シナリオ
連絡先: Dr. Robert Marusak
Tel: +421-45-5206313, Fax: +421-45-5332654
EMail: marusak@vsld.tuzvo.sk, <http://www.tuzvo.sk>

11/22～25, 2004 インド Jodhpur
熱帯林の多目的樹木：評価、成長と管理
連絡先: Dr. V.P. Tewari
Tel: +91-291-2722588, Fax: +91-291-2722764

E-Mail: vptewari@afri.res.in

第5部会 森林生産物

9/17～19, 2003 スロバキア Bratislava

木材, パルプ, 紙の化学的技術

連絡先: Dr. Stefan Suty

Tel: +421-2-59325211, Fax: +421-2-52493198

E-Mail: kdcp60@chtf.stuba.sk

9/20, 2003 カナダ ケベック

非木材生産物を持続的に開発するための地球規模の連携強化 (世界林業会議サイドイベント)

連絡先: James Chamberlain Ph.D

Fax: +1-540-2311383

E-Mail: jachambe@vt.edu, <http://www.sfp.forprod.vt.edu>

12/2～5, 2003 インド Peechi

第4回国際チーク会議「持続的林業経営からの高品質チーク材生産」

連絡先: Dr. Kanthila Mahabala Bhat

Tel: +91-487-699037, Fax: +91-487-699249

E-Mail: kmbhat@kfri.org, <http://www.kfri.org>

第6部会 社会経済, 情報, 政策

9/17～19, 2003 カナダ ケベック

国内, 地球規模の森林情報システムのための情報相互運用と組織

連絡先: Dr. Alan J. Thomson

Tel: +1-250-3630632, Fax: +1-250-3630775

E-Mail: athomson@pfc.forestry.ca

9/28～10/3, 2003 アメリカ Troutdate (Portland)

林業普及: 共同による能力の向上

連絡先: Scott A. Reed

Tel: +1-541-7372329, Fax: +1-541-7374966,

E-Mail: Scott.reed@orst.edu

11/26～28, 2003 チリ サンチアゴ

第4回森林の権利に関するラテンアメリカ会議

連絡先: Enrique Gallardo

Tel: +56-2-3900333, Fax: +56-2-6954788

E-Mail: congreso@conaf.cl, <http://www.conaf.cl>

1/1, 2004 オーストリア ウィーン

6.07.00と6.07.04の合同会議

連絡先: Prof. Charles Watkins

Tel: +44-115-9515151, Fax: +44-115-9513666

E-Mail: charles.watkins@nottingham.ac.uk,

<http://www.nottingham.ac.uk/>

6/1, 2004 ルーマニア Brasov

第6回国際シンポジウム「ヨーロッパの森林の持続的開発における法的側面」

連絡先: Mag. DI. Peter Herbst

Tel: +43-4242-52471, Fax: +43-4242-264048

E-Mail: hp@net4you.co.at,

第7部会 森林保護

9/14～19, 2003 日本 金沢

森林昆虫の生息密度の動態と宿主への影響

連絡先: Michael L. McManus

Tel: +1-203-2304312, Fax: +1-203-2304315

E-Mail: mlmcmamus@fs.fed.us

9/19～23, 2003 日本 金沢

対昆虫抵抗性-作業パーティ会合

連絡先: Dr. Francois Lieutier

Tel: +33-2-38417857, Fax: +33-2-38417879

E-Mail: francois.lieutier@orleans.inra.fr

9/29～10/2, 2003 アメリカ Georgetown, California

木喰い虫の生態と管理: 1960年代から21世紀

連絡先: Jean-Claude Gregoire

Tel: +32-2-6503179, Fax: +32-2-6502445

E-Mail: jcgregoi@ulb.ac.be, <http://www.ulb.ac.be/sciences/bioancel/>

6/26～29, 2004 カナダ Vernon

森林遺伝学と気候変動

連絡先: Alvin Yanchuk

Tel: +1-250-3873338, Fax: +1-250-3870046

E-Mail: alvin.yanchuk@gems4.gov.bc.ca

8/15～20, 2004 ニュージーランド Hammer Springs

森林の多様性と在来, 外来害虫に対する抵抗性

Contact: Dr. Andrew Liebhold

Tel: +1-304-2851512, Fax: +1-304-2851505

E-Mail: aliebhold@fs.fed.us or sandy@mserv.fsl.wvnet.edu

8/16～22, 2004 ポーランド Poznan-Bialowieza

第11回国際集会「根系の腐敗」

連絡先: Prof. Zbigniew Sierota

Tel: +48-22-8223201, +48-22-8229235

E-Mail: Z.Sierota@las.ibles.waw.pl,

<http://www.ibles.waw.pl>

8/27～31, 2004 フィンランド Oulu

気候変動、紫外線の増加、大気汚染のもとでの森林

連絡先: Prof. Satu Huhtunen

Tel: +358-81-5531527, Fax: +358-81-5531061

E-Mail: satu.huhtunen@oulu.fi

第8部会 森林環境

9/10～12, 2003 スイス Davos

第3回国際会議「土石流被害の緩和」

連絡先: Dieter Rickenmann

Tel: +41-1-9252895

E-Mail: dieter.rickenmann@wsl.ch

9/16～18, 2003 フランス カールスルエ

強風と樹木：生態と管理

連絡先: Chris Quine

Tel: +44-131-4452176, Fax: +44-131-4455124

E-Mail: Chris.Quine@forestry.gsi.gov.uk,

11/13～15, 2003 イタリア フィレンツェ

森林の生物多様性のモニタリングと指標－概念と運用

連絡先: Tor-Bjorn Larsson

Tel: +45-33367120, Fax: +45-33367199

E-Mail: Tor-Bjorn.Larsson@cea.eu.int

11/19～21, 2003 オーストリア ウィーン

水と社会－需要、挑戦、制約

連絡先: Dr. Robert Jandl

Tel: +43-1-87838-1302, Fax: +43-1-87838-1250

E-Mail: robert.jandl@fbva.bml.gv.at, <http://fbva.forvie.ac.at>

9/1, 2004 フランス Bordeaux

第8部会全体会議

連絡先: Alain Franc

Tel: +33-1-45498982, Fax: +33-1-45498839

E-Mail: franc@athena.paris.inra.fr

9/6～10, 2004 キリシフ Thessaloniki

斜面安定性改善のための植生利用

連絡先: Sanna Dupuy

Tel: +33-5-57979117, Fax: +33-5-56680713

E-Mail: ecoconf@trbb3.pieretron.inra.fr,

その他の会議「フロクラム・プロジェクト」

9/22, 2003 カタチ ケベック

WFSE フォーラム(サキイベント)

連絡先: Gerardo Mery

Tel: +358-10-21112153, Fax: +358-10-2112104

E-Mail: gerardo.mery@metla.fi, <http://www.metla.fi>

9/24, 2003 カタチ ケベック

山岳地域開発における水源とリスク管理(サキイベント)

連絡先: Dr. Gernot Fiebigler

Tel: +43-662-878152, Fax: +43-662-870215

E-Mail: gernot.fiebigler@wflv.bml.gv.at

9/24～25, 2003 カタチ ケベック

特別対策「森林バイオテクノロジー」の検討会議(サキ

イベント)

連絡先: Maurizio Merlo

Tel: +39-049-8293952, Fax: +39-049-8293916

E-Mail: maurizio.merlo@unipd.it

9/26, 2003 カタチ ケベック

GFIS: 森林情報資源の新たな発見に向けた国際イニシ

アチア(サキイベント)

連絡先: Dr. Michael Kleine

Tel: +43-1-8770151, Fax: +43-1-8770151-50

E-Mail: office@iufro.org, P-E-Mail: kleine@iufro.org,

<http://iufro.boku.ac.at>

10/15～17, 2003 ー

会議のためのE-コミュニケーション

連絡先: Daniela Krumlund

Tel: +49-551-393412, Fax: +49-551-393415

E-Mail: dkrumlund@gwdg.de,

10/22～24, 2003 イタリア Porto Cervo, Sassari

統合型水源管理：水資源の持来

連絡先: Pier Carlo Zingari

Tel: +33-479-334952, Fax: +33-479-333895

E-Mail: zingari.piercarlo@wanadoo.fr

5/19～21, 2004 — —
PR:IUFROの使命
連絡先: Dr. Max Krott

Tel: +49-551-393412, Fax: +49-551-393415
EMail: mkrott@gwdg.de

会費納入・研究者登録のお願い

IUFRO-Jの活動は会費収入で運営されております。健全な会の運営のために会費納入をお願いいたします。

A、B会員におかれましては、会費納入と併せて研究者（会則第5条）、連絡員（付則1）の登録（事務局への連絡）をいただいております。また、転勤・退職等で機関を離れた皆様には、あらためてC会員としてご登録いただきますようよろしくお願いいたします。

納入方法

郵便振り込みの場合

郵便振替口座：00190-3-159224

名義：IUFRO-J事務局

*事務局といたしましては、できる限り郵便振り込みをご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

銀行振り込みの場合

関東つくば銀行 牛久支店 普通預金口座 697583

名義：IUFRO-J事務局 田中 潔

注意：-（ハイフン）をお忘れなく。銀行名（合併のため）と事務局代表者名が変わりました。

IUFRO-J 平成 15 年度機関代表会議

平成 15 年 3 月 29 日、岩手大学上田キャンパス学生センター棟 4 階 G44 会議室において、標記会議を開催いたしました。会議には A 会員 18 機関、B 会員 5 機関の計 23 機関代表と、鈴木和夫 IUFRO 第 7 部会会長が出席されました。会議において、佐野真前主事の司会で議事を行いました。以下では、この代表者会議で、審議・承認された議題の概要を報告します。なお、会議開催につきましては、第 114 回日本林学会大会運営委員会の皆さまに大変お世話になりました。この場を借りましてお礼申し上げます。

1. 平成 15 年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No.76 (2002. 8) : 理事会報告・集会報告・機関代表会議報告

No.77 (2002.12) : 集会報告

No.78 (2003. 3) : 集会報告

会誌送付会員 (平成 15 年 3 月 27 日現在 (会費納入者数)) の現状

A 会員 : 28 機関 (720) 名分納入済み
(会員数前年度比: 減)

B 会員 : 22 機関 18 機関納入済み
(会員数前年度比: 減)

C 会員 : 40 名 (31) 名納入済み
(会員数前年度比: 増)

賛助会員: なし

2) 理事会出席助成

鈴木理事第 41 回理事会 (2002.6.14 ~ 21 パンクーバー) 今年度予算執行

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

事務局 (20 万円)

金指 あや子 (森林総研)

富樫 一巳 (広島大学)

参加 (10 万円)

芝 正巳 (京都大学)

2. 平成 14 年度会計決算報告

1. 一般会計 (平成 15 年 3 月 27 日現在)

(収 入)

| 科 目 | 予 算 | 決 算 | 備 考 |
|-----------|-------------|-----------|-----|
| 前年度繰越金 | 2,237,957 | 2,237,957 | |
| 会費 A 会員 | 820,000 | 720,000 | |
| B 会員 | 150,000 | 125,000 | |
| C 会員 | 39,000 | 31,000 | |
| 前年度未収分 | 11,500 | 61,000 | |
| 会費前納分 | | 3,000 | |
| 雑 収 入 | 1,000 | 35 | 利息 |
| 合 計 | 3,259,457 | 3,177,992 | |
| (単年度収入合計) | (1,021,500) | (940,035) | |

(支 出)

| 科 目 | 予 算 | 決 算 | 備 考 |
|-----------|-------------|-------------|-------------------|
| 情報活動費 | 750,000 | 500,766 | J-News印刷費・ 発送料 |
| 会 議 費 | 50,000 | 33,000 | 機関代表会議 (新潟大) |
| 旅 費 | 300,000 | 150,000 | 理事会出席助成 |
| 雑 費 | 39,000 | 31,000 | 振り込み手数料・ 送金手数料 |
| 予備費 助成 | 500,000 | 706,000 | 事務局・参加助成 |
| 次年度繰越 | 1,649,457 | 3,000 | |
| 雑 収 入 | 1,000 | 35 | 利息 |
| 合 計 | 3,259,457 | 3,177,992 | |
| (単年度支出合計) | (1,610,000) | (1,393,576) | |

3. 平成14年度監査報告

平成14年度ユフロ-J事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成15年3月27日

IUFRO-J 監事

財団法人 林業科学技術振興所 事業部長

三國 昇

平成14年度ユフロ-J事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成15年3月27日

IUFRO-J 監事

社団法人 日本林業技術協会 専務理事

根橋 達三

4. 平成15年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

番号（予定時期）：掲載記事に関する事務局案、各号とも16ページ予定。

No.79 (2003.6)：集會報告、機関代表會議報告

No.80 (2003.10)：集會報告、理事会報告

No.81 (2004.2)：集會報告

各1300部印刷し、会員配布

※注：掲載記事は、IUFRO活動で会員に広く知らせたい事項を優先したいと考えます。

積極的に事務局にご相談ください。

2) 理事会出席助成

理事

3) IUFRO 研究集會事務局・参加助成

未定

4) 長期滞納会員の解消

5) 新規会員の加入勧誘

5. 平成15年度予算案

予算案立案の基本的な考え方

○一般会計予備費を関連研究集會助成に活用する方向を継続する。

○単年度収支に心がける。

1. 一般会計予算案

(収 入)

| 科 目 | 予 算 | 備 考 |
|-----------|-------------|------------------|
| 前年度繰越金 | 1,784,416 | |
| 会費 A 会員 | 816,000 | 28 機関 |
| B 会員 | 144,000 | 22 機関 |
| C 会員 | 40,000 | 40 名 |
| 未 収 分 | 127,500 | 会費未収入 (H14 年度合計) |
| 次年度前納 | | |
| 雑 収 入 | 1,000 | |
| 合 計 | 2,912,416 | |
| (単年度収入合計) | (1,128,000) | |

(支 出)

| 科 目 | 予 算 | 備 考 |
|-----------|-------------|--------------------|
| 情報活動費 | 750,000 | J-News 印刷費・発送料・封筒代 |
| 会 議 費 | 50,000 | 機関代表會議 (岩手大) |
| 旅 費 | 300,000 | 理事会出席助成 |
| 雑 費 | 10,000 | 振り込み手数料・送金手数料 |
| 予備費 助成 | 500,000 | 事務局・参加助成 |
| 次年度繰越 | 1,302,416 | |
| 合 計 | 2,912,416 | |
| (単年度支出合計) | (1,128,000) | |

6. 役員選出, 承認

平成15年度役員候補

| 役員 | 氏名 | 所属 | 区分 | 任期 | 官職による指定 |
|----|-------|------|----|-----------|--------------|
| 議長 | 田中 潔 | 森林総研 | 現 | (H15年4月～) | 理事長 |
| 幹事 | 沢田 治雄 | 森林総研 | 現 | (H15年4月～) | 研究管理官 (海外担当) |
| | 山本 幸一 | 森林総研 | 現 | (H14年4月～) | 研究協力科長 |
| 監事 | 根橋 達三 | 日林協 | 現 | (H14年4月～) | |
| | 三國 昇 | 林振 | 現 | (H9年10月～) | |
| 主事 | 堀 靖人 | 森林総研 | 現 | (H15年4月～) | 海外研究協力室長 |

7. その他

IUFRO理事で第7部会会長の鈴木和夫東京大学教授より、①IUFRO林学学生賞の創設されたので、積極的に推薦してほしい、②「Terminology of Forest Management Planning」には中国語がなかったため、台湾のウー先生が中国語版語彙集を作りあげ、出版予定。当機関として、

その語彙集を購入し中国語版語彙集の出版を支援したらどうかと提案がありました。

上記の提案について、当会議の場で、IUFRO林学学生賞の推薦を積極的に進める必要があることを確認するとともに、中国語版語彙集の出版を支援するために、当機関で予算の許す範囲で購入することが了承されました。

< IUFRO-J Newsへの寄稿のお願い >

会員の皆様のご協力により「IUFRO-J News」の発行も順調に進んで参りました。これからもニュースの内容を充実させるために、IUFROの研究集会などの開催予定や参加した集会の内容紹介など、会員に広く知らせたい事柄について記事をお寄せください。また、研究集会などに参加予定、または参加された方を紹介いただければ、事務局から執筆のお願いをすることもできます。会員相互の情報交換の場として「IUFRO-J News」をどうぞ活用ください。

(事務局)

IUFRO-J 入会申込書

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 会員種別 (該当するものに○) | 会費 (年間) |
| A 会員 (IUFRO 加盟機関) | 1,000 円×登録研究者数 (当該年度4月1日現在) |
| | 500 円×学生会員 (当該年度4月1日現在) |
| B 会員 (IUFRO 非加盟機関) | 1,000 円×登録研究者数 (当該年度4月1日現在) |
| | または、定額1口5,000 円を1口以上 |
| C 会員 (個人) | 1,000 円/人 |
| 賛助会員 (機関、団体) | 1口10,000 円を1口以上 |

2. 会員名 (A, B, 賛助会員は機関・団体名, C会員は氏名)
-

3. 会員住所 (会誌送付先, 会費請求先)

郵便番号 _____

住 所 _____

TEL: _____ FAX: _____

E-mail: _____

4. 登録研究者数 (A, B 会員) _____ 名
必ず、名簿を添付してください。学生会員につきましては区別して記載してください。

5. 会費口数 (B, 賛助会員) _____ 口
B 会員は定額制を希望される場合に記入してください

6. 機関代表者氏名 (A, B 会員) : _____

7. 連絡員氏名 (A, B 会員) : _____

8. 申込年月日

添付書類：登録研究者名簿 (様式は任意)

事務局記入：受付年月日 _____

IUFRO研究集会事務局・参加助成実施要領

対象集会：IUFRO関連研究集会（参加の場合は、海外に限ります。）

助成金額：事務局　：20万円/団体、
集会参加：10万円/人　を目途とします。

応募資格：会費を納入している機関、会員

- 会則第5条に則り、研究者登録をお忘れ無くお願いします。事務局で会費納入を確認できない方は助成の対象にできません。
- 研究集会参加は筆頭発表者に限ります。

募　集：随時受け付けています。

別添申請書に必要事項を記入し、必要資料を添付して、下記まで送付。
〒305-8687 茨城県つくば市松の里1番地 森林総合研究所内
IUFRO-J事務局 宛

選　考：12月末現在で集計し、集計時から1年3ヶ月後までに開催される研究集会を選考対象として選考委員会に諮ります。

（2003年12月末集計時の選考対象は、2005年3月末までに開催される研究集会となります。）

選考結果：IUFRO-J Newsで発表。

配布時期：原則として集会開催1ヶ月前。

（国際集会の場合、キャンセルになる場合もありますので、できるだけ直前とします。）

備　考：助成を受けた機関・会員にはIUFRO-J Newsへの投稿を求めます。

注　意：助成金額はあくまで目途です。

IUFRO-J一般会計の収支状態によって、事務局で勘案いたします。

附　則：

（平成9年4月施行通知、初出IUFRO-J News No.61）

（平成9年7月10日 IUFRO-J News No.61 掲載一部改訂）

（平成13年8月 IUFRO-J News No.73 掲載一部改訂）

事務局 受付年月日： _____

整理番号： _____

IUFRO 研究集会事務局・参加助成申請書

助成区分： 事務局 参加 (どちらかに○)

応募者氏名 (事務局の場合は代表者)：

所 属：

連絡先： 〒 _____

TEL/FAX _____

E-mail _____

研究集会名：

開催時期・場所：

集会規模：(概数)

IUFROとの関連：(例 第x部門のワークショップまたはシンポジウム)

助成金の主な使途 (事務局の場合)

発表題目 (研究集会参加の場合)

添付資料 (集会の内容や発表がわかる資料を、必ず添付してください。)

国際森林研究機関連合-日本委員会則

(名称と目的)

第1条 本会は、国際森林研究機関連合-日本委員会(略称をIUFRO-Jとする)と称し、国際森林研究機関連

合(以下IUFROと呼ぶ)の目的に沿って、その事業に協力するため、国内の森林・林業・林産業に関連する研究機関の相互連携を図るとともに、IUFROに関連

する諸活動に貢献することを目的とする。

(業務)

第2条 本会は、前条の目的を達成するための次の業務を

行う。
1. わが国におけるIUFRO加盟機関相互の情報交換の推進および連絡調整

2. IUFROの評議員会への代表および代理の決定

3. IUFROが組織する研究グループ活動の支援

4. その他本会の目的達成に必要な事項

(役員)

第3条 本会は、事務局を、茨城県つくば市松の里1

森林総合研究所内におく。

第4条 本会の委員は、次の4種とする。

(役員)

1. A会員 IUFRO加盟機関

2. B会員 IUFROに加盟していないが、本会の趣旨に賛同する森林研究機関

3. C会員 A、B会員の機関に所属していないが、本会の趣旨に賛同する個人

4. 賛助会員 本会の趣旨に賛同する機関または団体

(機関会員の研究者登録)

第5条 A、B会員に所属し本会の趣旨に賛同する研究者は、本会に登録するものとする。登録研究者に異動のあった場合は、その都度事務局に連絡する。

(会費および会計)

第6条 会費は次のとおりとし、毎年度のはじめに納入するものとする。A、B会員の会費は、当該年度4月1日におけるその機関の登録研究者数に応じた額(1人当たり年額1,000円、但し学生会員は500円)とする。ただしB会員については、定額制(年額1万円、5,000円を1口以上)をとることができる。C会員の会費は年額1,000円とする。賛助会員の会費は年額1万円以上とする。

第7条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第8条 本会の予算および決算は、機関代表会議に提出して、その承認を受けるものとする。

(役員)

第9条 本会に、次の役員をおく。

議長 1名

幹事 若干名(うち1名を幹事長とする)

監事 2名

主事 1名

第10条 議長は本会を代表し、会務を総括する。幹事は、会務執行に関する事項を審議し、幹事長は会務を執行するとともに議長を輔佐し、議長はさしつかえあるときはその職務を代理する。監事は、会計および会務執行の状況を監査する。主事は幹事長の職務を補佐する。

第11条 役員の出発方法は、次のとおりとする。議長、幹事および監事は、機関代表会議で選出し、幹事長は、幹事の互選とする。主事は議長が委嘱する。

第12条 役員任期は、2ヶ年とし、再任を妨げない。任期中に欠員のできた場合は幹事会において選出し、次期機関代表会議で承認をえるものとする。欠員を補充するため選出された役員任期は前任者の任期の残りとする。

(会議)

第13条 会議は、機関代表会議および幹事会とする。

第14条 機関代表会議は、A、B会員それぞれの機関で選ばれた代表(1名)で構成する。通常毎年度頭初に開くことし議長が召集する。機関代表会議では、会務報告、予算、決算の承認、第2条2項等会の重要事項を審議決定する。

第15条 幹事会は、議長および幹事をもって構成し、議長が召集する。幹事会には、議長の指名する者を参加させることができる。

(その他)

第16条 本会々則の変更および本会に関する重要事項は、機関代表会議で決める。

付則 1 各機関に連絡員をおき事務局に登録する。

2) 本会則は昭和54年4月7日より施行する。

3) 昭和57年6月24日一部改訂(第6条 学生

会員の会費)

IUFRO-J News No. 79 平成15年8月18日

国際森林研究機関連合-日本委員会事務局

茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所内

TEL 029-873-3211 (232)

[編集・発行]